

2017年(平成29年度)複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	II-3 全てのいのちが共生する社会の構築	施策No.	17	施策名	生息環境の再生・創造
目的、内容	生物多様性に配慮した行動促進(手引きを作成、公共事業・事業活動・日常生活における配慮促進、保全取組の評価制度の検討等) エコロジカルネットワークの構築推進(公園・府民の森・河川等の府民活動拠点化、周辺緑地等の整備等と連携、周辺山系～沿岸のネットワーク形成) 2020年目標:活動する府民を2009年の約7万人から30%増加の達成				
副次的効果、外部効果等	①社会教育効果、地域への愛着を高め地域社会の強化に資する。 ②生態系から得られる恵み(大気・水、食料・木材、医薬品・品種改良、文化・風土、防災:生態系サービス)の維持向上に資する。				
関係法令、行政計画等	生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略2012-2020(2012.9)、鳥獣保護法、外来生物法 府環境基本条例、府自然環境保全条例、府立自然公園条例、府民の森条例、府自然海浜保全地区条例、府文化財保護条例 みどりの大阪推進計画(2009年12月、2025年まで) 新・大阪府豊かな海づくりプラン(2015年4月、2024年度まで)				
国等の政策、社会情勢等	①H22年10月名古屋市にて生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催、新戦略計画・愛知目標(2020年までに生態系が強靱で基礎的なサービスを提供できるよう、生物多様性の損失を止めるために実効的かつ緊急の行動を起こす)、名古屋議定書等を採択。 ②「生物多様性国家戦略2012-2020」2012年9月閣議決定。基本戦略、各主体に期待される役割、ロードマップ、行動計画を規定。				
(参考) 「講じた施策」に記載した施策事業コスト	2014年度(決算額)(千円)	2015年度(決算額)(千円)	2016年度(決算見込額)(千円)		
	7,707	6,321	6,281		
	※各年度で「講じた施策」への掲載事業が異なることから、新規事業の有無等に関わらず、年度間でコストの増減がある。				
取組指標及び実績 (施策効果の定量評価)	名称	把握方法	実績		
①	生物多様性分野の環境活動に取り組んだ府民の比率	府民インターネットモニターアンケートにより把握される、最近1年間に活動に参加した府民の比率(参考値)。	生物多様性の保全の分野について過去1年間に地域における環境保全のための取組みに参加した府民の割合 6.0%(2014年度)、0.9%(2015年度)、1.1%(2016年度) ※2015年にモニターを変更		
工程表の進捗状況	工程名	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況	
	藻場・干潟の再生(保全及び親水活動)	☆☆	港湾建設事業(環境)	緑地整備、生息環境形成や水質浄化を図るための人工干潟を整備	
	海底の砂地再生(マールビーチ等)	☆☆	マールビーチ覆砂	2014～2016年度該当事業なし。	
	大阪湾窪地解消(モニタリング、埋め戻し工事実施)	☆☆		堺市・岸和田市・貝塚市沖で計386万m <sup>3</sup> 埋戻しを実施(2016年度末、残量約1,543万m <sup>3</sup> )	
	水産資源保護管理(栽培漁業、増殖場、漁場整備)	☆☆	広域型増殖場造成事業	魚介類の産卵場、稚仔魚の育成場である増殖場を造成(2014年0.8ha。2014年度で完了)	
栽培漁業推進事業(2014～16年度)			大阪湾の水産資源の回復・維持と漁業生産向上のため、府栽培漁業基本計画を策定、対象魚介類種苗生産・放流を実施。(第7次計画5魚種)		
	多自然川づくりの推進	☆☆	ふるさとの川整備事業の推進	河川本来の自然環境の保全・創出や周辺環境との調和を図るとともに、地域整備と一体となった河川改修を行い、良好な水辺空間を形成。	
	大規模緑地等を拠点としたエコロジカルネットワーク構築(生物多様性やネットワーク化に配慮した公園整備・緑化推進)	☆☆	おおさか生物多様性パートナー協定の推進	生物多様性保全に取り組む企業と、府・試験研究機関との連携を推進。協定締結5件(2016年度まで)	
	森林整備の推進(人工林の適正な間伐)	☆☆	森林造成事業	312ha(2014年度)、445ha(15年度)、384ha(16年度)	
	臨海部生	☆☆	共生の森づくり	堺第7-3区産業廃棄物処分場の「共生の森(約100ha)」において、NPO等多様な主体	

	息環境創造(共生の森づくりの推進)			との連携による森づくり活動、自然環境学習等を実施。毎年1,500人前後が参加
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画どおり/☆計画以下の進捗/△計画とは異なる事業内容で進捗				
評価		評価	理由等	
	施策目的の達成状況	想定以下の進捗	モニター変更により想定以下の進捗	
	事業・工程の進捗状況	計画通り進捗している		
計画見直し又は改善事項		見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等	
	目標	無		
	施策の方向・主な施策	無		
	工程表	有	・「藻場・干潟の再生」、「海底の砂地等再生」と工程を細分化せず、「豊かな漁場づくりの推進」などの書き方が管理しやすい。	
	その他の改善事項	無		
関係課室	みどり推進室、教育庁、環境管理室、水産課、都市整備部、環境農林水産総務課			

環境総合計画部会委員による点検(所見)	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について
	評価手法は概ね適正であるが、「活動する府民」の定義を明確にした方がよいのではないかと。	評価結果は概ね妥当であるが、生物多様性パートナー協定の実績が伸びないのが気になる。	パートナー協定の締結は企業だけでなく、学校など公共施設も対象としたらどうか。また、多自然川づくりの評価項目にレッド種の生息環境保全や外来生物の駆除等を含めることを検討してほしい。